



にぎわう霊峰御嶽山のふもとに位置する王滝村に診療所があります。常勤医がいない時期がありました。田中康夫前長野県知事の意向で二〇〇三年に自治医大卒業生の派遣が始まり、〇五年五月、二人目の自治医大卒業医師として診療所に赴任しました。

すぐ消えた不安

私の専門は内科ですが、診療所では患者さんの要望で時には外科医、時には整形外科医にならなくてはなりません。赴任前は多彩な診療所の業務ができるのかと非常に心配でした。

しかし、実際に診療を始めてみると、患者さんたちが、「先生が来てくれてうれしい」「先生の家に明かりがあるだけで安

気張らずにやれることを

心する。などと言ってくれ、不安はすぐなくなりました。ここにいてだけで村民に安心感を

与えられるんだと分かり、気持ちがいぶ楽になりました。医師としてすべての科を完ぺきに

こなせるに越したことはないのですが、気張らずやれることをやるうという考えになれまし

た。

王滝村は現在、非常に財政が厳しく、破たんした北海道夕張市よりも悪い状態です。しかし、財政再建団体にはならず独自に再建を図っています。その影響で、路線バスの減少や公共料金の負担増など、住民に厳しい状態が続いています。

今後も存続願う

診療所の経営は残念ながら毎年、赤字で村に負担を掛けています。けれども、村の今後の在り方を話す中で、村長をはじめ

村民から、診療所は続けてほしいという話はあっても、廃止するという話は一度も出ませんでした。それだけ村に診療所が必要とされているということを感じました。

しかし今年、私が王滝診療所を離れることになり、その際、

診療所派遣引き上げを検討しているという話が出ました。長野県も医師不足が深刻なためです。派遣が中止になれば、財政的に厳しい村が医師を探すことは難しく、診療所の存続にかかわってきます。

幸い今回は医師の都合がつき、卒業生の派遣が継続されました。長野県の医師不足はすぐに解消されそうもなく、来年度以降も診療所への医師派遣は検討課題とされそうです。村民の診療所への思いを知っているだけに、今後も存続を願わずにいられません。また早く村の財政を立て直し、お年寄りに住みやすい村になってほしいと思います。

四月に王滝診療所から異動になり、少し離れた病院へ勤務することになりました。今は外来で似たような名前を見て、王滝のあの患者さんはどうしているかなと、ふと思いつきながら新しい職場で診察をしています。伊東医師は異動となり、現在は長野県阿南病院に勤務しています。

(次回予定は山形県)

いとう 伊東

かずひろ 一博

22期生1999年卒



御岳湖から望む御嶽山と王滝村中心部

長野県王滝診療所

【私の勤務地】王滝村は長野県西部の山間にあり、人口約1000人。診療所は唯一の医療機関で、設備は心電図、超音波、レントゲンといった基本的なものだけで、入院設備はない。重症例は車で約30分の位置にあるふもとの県立病院と密に連携を取り対応している。